

韓国仏教信者の活動

—祈禱と修行—

佐 藤 厚

1 問題の所在

毎年11月になると、テレビや新聞で韓国の大学入試に関するニュースが報道される。韓国の大学入試は国を挙げての大イベントである。報道の中では、試験に遅刻しそうになった学生を警察が送り届ける場面に加え、受験生の母親たちが寺院や教会で熱心に祈りを捧げる場面がみられる。ここから日本と韓国の宗教の熱度の違いを感じる人は多いであろう。日本にも合格祈願の祈禱はあるが熱心さは韓国の比ではないと思う。この例に象徴されるように韓国では宗教の別を問わず祈禱が重要な位置を占めている。また韓国の仏教では信者が参禅のほか様々な修行を行っている。日本でも参禅会などが行われているが、韓国と比べると修行に対する熱心さが違う印象を受ける。

こうした両国の仏教信者と仏教のかかわり方の違いを端的に表現するならば、日本は葬式・法要の仏教、韓国は祈禱・修行の仏教ということができよう。筆者は過去に韓国仏教の祈禱・修行について整理したことがある¹。それらは主要な祈禱・修行を紹介するものであったが、最近ではより具体的なことから、すなわち韓国の仏教信者はどのような経緯で祈禱、修行に入り、どのような修行を行いそしてどのような効果を得たのかについて知りたいと思うようになった。そこで本稿では、韓国の仏教系新聞に連載された仏教信者の祈禱・修行体験記事をもとに、現在の韓国で行われている祈禱、修行をみていく。これにより信者の行動という側面から日本とは違う韓国仏教の特徴が理解できると考えられる。これに関する先行研究はないと思われる。

2 調査概要

今回、調査対象としたのは『法宝新聞』という仏教系新聞に連載された記事である。『法宝新聞』は1988年に創刊された仏教界を代表する新聞である。これは特定の宗派の新聞ではなく総合的な性格を持っている。この中に2004年から続く「私の発心修行」という連載記事がある。これは信者の修行体験談である。記事は一人当たり約1300文字ある

1 佐藤厚『はじめての韓国仏教』（佼成出版社、2019年）第二章「韓国仏教の現在」第三節「修行」、第四節「祈禱」

いは2600文字である。筆者が調査対象としたのは2010年から2019年までの165人分である。本来ならばすべてを網羅すべきであろうが、時間的制約でこの期間となった。しかし、大きな傾向は変わらないと思う。

今回収集したデータの中、いくつかの指標を紹介する。第一に、年齢は、最年少26歳、最高齢89歳で、平均53歳である。第二に、年齢帯は、20代2名、30代8名、40代50名、50代61名、60代28名、70代11名、80代1名となっており、50代が最多であり、以後、40代、60代と続く。第三に、男女比は、男36名、女129名で女性が男性の3倍以上多い。第四に、修行法を人数別に集計すると<表1>のようになる。

<表1>修行別人数

	修行法	人数	備考
1	チョル	37	
2	陀羅尼読誦	35	①大悲呪、②楞嚴神呪、③チュンブ陀羅尼、④アビラ祈祷
3	經典読誦	15	『金剛般若経』、『法華経』、『地藏経』など
4	参禅	27	
5	写経	19	『法華経』、『千手経』、『般若心経』、『観音経』など
6	念仏	3	
7	慈悲道場懺法	5	
8	ヴィパッサナー	7	
9	その他	17	感謝修行、慈愛瞑想修行、ポリソンス、呼吸修行、止観修行、念仏禅、瞑想修行、セマルクイ修行
	合計	165	

この表の並びは、次節で解説する順序で並べているために人数順ではない、

表で注意しなければならないのは、韓国仏教では複数の修行を同時に行うことが多いことである。日本仏教ならば、一人の人が念仏と題目を唱えることはないと思われる。それに対して韓国仏教の場合は、一人の人がチョルをして陀羅尼を唱え經典の読誦を行い参禅も念仏も行うのはめずらしいことではない。上の表は、実際には複数の祈祷・修行を行うが主要なものに分類している。

このほかにも韓国仏教の修行法には、天台宗で行われる観音精勤（観世音菩薩の名前を唱える）や真覚宗で行われる六字大明王真言（オンマニパンメフーン）読誦があるが、ここにそれらは出てこない。その理由は、天台宗や真覚宗には宗派ごとの新聞があって、それぞれの信者は宗派の新聞を購読するために法宝新聞には投稿しないのだと考えられる。

次節ではこれらの修行法について例を示しながら見ていく。

3 代表的な祈祷・修行

本節では、前節の<表1>で整理した祈祷・修行の中、8つの祈祷・修行について見ていく。順序は①祈祷・修行についての簡単な説明、②体験談の要約、③コメントである。

(1) チョル修行

チョルとは五体投地に似た身体動作で、本来は目上の人に対する敬礼法である。日本でいえば膝をついて行うお辞儀に似ている。これが仏教でも用いられ、仏や師に対する礼拝や、これを108回繰り返す懺悔の108拜などが行われる。これが修行になるのは回数を大量に繰り返すからである。チョル修行を有名にしたのは現代の高僧で曹溪宗の最高権威である宗正を務めたソynchヨル和尚(1912-1993)である。和尚は自分に面会しようとする者に3000拜を求めたという。近年ではチョンギヨン和尚が、法王精舎(詳しくは後述)というチョル修行の専門の道場を開いたほか、テレビなどにも出演しチョルを広めている。そうした中、チョルは宗教を離れ、健康法としても脚光を浴びている。

次に紹介する事例はチョンギヨン和尚のもとで一万拜のチョル修行を行った女性についてである。要点を略述する。

【事例1】年齢：26歳、性別：女性、場所：法王精舎

- ・修行の動機は不明。
- ・3日で一万拜を行った。初日に約16時間をかけて3400拜、2日目に4200拜、3日目に2600拜を行った。
- ・3日目の残りの700拜は集中修行といい、体を上げ下げするたびに、父母への感謝を言う。その時の模様は次のようである。
- ・「あまりにも苦しくて死にそうなのに、自然に感謝する気持ちが滝のように起こった。不思議な経験だった。永遠に終わらないかと思われた2時間が過ぎて、どんな時よりも切実に、至極な心で祈禱を行った。その瞬間、胸の奥底から<ついに、やり遂げた>という溢れんばかりの感動に、涙がとめどなく溢れた。」
- ・修行後、目に見えるものすべてに感謝の気持ちが自然に湧いてきた。その感想を次のように述べる。
- ・「あれだけのチョルを終えて、再び日常生活に戻ってみると、すべてが新しい。以前は絶対に手放せそうになかった欲心も軽く見るようになり、目に見えるものすべてに感謝の気持ちが自然に湧いてきた。また、〈一万拜もやり遂げた自分に出来ないことがあるのか〉という自信も生まれた。」

この26歳の女性が修行を始めた動機は不明である。チョル修行の代表的な道場、法王精舎で修行を行なった。それは3日で1万拜を行う苦行である。しかしそれをやりとげる中で感謝の念が生まれる。そして日常生活に戻った後、感謝の気持ちとともに自分に対する自信が生まれている。ここからチョル修行は、苦しい身体動作を通して心の変化をもたらし、自分自身の生まれ変わりを促すはたらきをしていると考えられる。

(2) 陀羅尼読誦

陀羅尼読誦は、文字通り経典の中の陀羅尼を大量に読誦する修行である。読誦される陀羅尼の種類は、①『神妙章句大陀羅尼経』の大悲呪、②『楞嚴経』の中の楞嚴神呪、③『地藏十輪経』中のチュンブ陀羅尼、④アビラ祈禱などがある。以下、解説と修行体験を示す。

①『神妙章句大陀羅尼經』の中の大悲呪

大悲心陀羅尼、大悲円満無礙神呪等ともいう。『千手千眼観世音菩薩広大円満無礙大悲心陀羅尼經』に含まれ千手観音の陀羅尼として知られているが、元々は青頸観音という別の変化観音のものである。日本では「ナムカラタンノー」として主に禅宗で広く読誦される。これには中国・ベトナム・日本で広く普及している簡略なテキスト（「抄本」）と、それよりも長く、整えられたもの（「広本」）が現存する。朝鮮半島で用いられるのは広本に見られる句を含む抄本を基にしたテキストが使用されているという²。

次の事例は、70歳の女性の、大悲呪修行で有名な徳陽禪院（後述）での修行とその結果である。

【事例2】年齢：70歳、性別：女性、場所：徳陽禪院

- ・子供たちが巣立った後、仏縁と出会った。
- ・仏教テレビで徳陽禪院のポップサン和尚の講義を聞いて心を動かされた。
- ・インターネットで検索し、徳陽禪院のサイトの大悲呪7日7夜祈祷や自性仏修行の感想文に戦慄を覚えた。
- ・徳陽禪院で自性仏修行を行い、自分自身の愚かさ醜さを知り懺悔した。
- ・その後、しばらくして大悲呪10万読を達成した。
- ・すると、家族にもよいことが起こるようになった。これを仏の加被と思い、感謝している。

この70歳の女性は子育て後に仏縁に遇った。そして仏教テレビを通してポップサン和尚を知り、インターネットを通して徳陽禪院のサイトを訪れ、そこでの大悲呪7日7夜祈祷や自性仏修行の感想文に衝撃を受けた。このようにテレビやインターネットが仏教との出会い、修行法との出会いに大きな役割を果たしている。その後、徳陽禪院に行って修行を行い、自分の実相を知る自性仏修行を行った。これら7日7夜祈祷や自性仏修行の詳しい内容はわからないが、苦行に近いものであること、自己反省を促すはたらきがあることが推測される。そして10万読を達成すると、その功德は家族にも及んだという。このように大悲呪修行は、大量反復を通じた苦行とその中で得られる自己反省の気持ち、やがて家族により影響をもたらすという加被力を実感することにつながっている。

②『楞嚴經』の中の大楞嚴神呪

「大仏頂陀羅尼」ともいう。『楞嚴經』第7巻に収録されており、計427句である。この呪文は大きな靈験があるとして韓国では早くから広く念誦された。中国禅宗でもこの呪文は広く念誦され、唐時代の百丈は百丈清規にこの呪文を唱えることを勧めた。

次の事例は、60歳の女性が楞嚴神呪の読誦修行を行う様子である。

2 Wikipedia「大悲心陀羅尼」（2020年10月1日閲覧）

【事例3】 年齢：60歳、性別：女性、場所：玉泉寺

- ・ 仏教信者だが仏教を知らないので夜間に韓国仏教大学大観音寺に通った。
- ・ 仏教のオンライン同好会に加入し、指導を受けたりした。
- ・ 楞嚴呪で有名な玉泉寺のベク Chol 和尚のもとに通うようになった。
- ・ 毎月第1週の土曜日ごとに楞嚴呪108読徹夜精進をし、第3週の週末にも集まって楞嚴呪黙読徹夜精進を続け、10年結社を円満に回向した。その後も毎月2回の徹夜精進は続いている。
- ・ 一方向しか見なかった性格が変わり、物事をいろいろな角度から見ることができるようになった。

この60歳の女性が修行に入ったきっかけは、仏教信者でありながら仏教についてよく知らないという知的部分である。そして仏教を学ぶ学校から始まり、いくつかの場所を経て、楞嚴呪で有名な玉泉寺のベク Chol 和尚のもとに通うようになった。楞嚴呪の読誦は月二回で、第一週の土曜日は徹夜精進、第三週の週末は黙読徹夜精進である。これも大悲呪と同様、夜を徹して唱え続ける苦行になっていることがわかる。そしてその苦行を乗り越えることにより、修行者自身の性格の改善という効果が得られた。

③『地藏十輪經』の中の陀羅尼：チュンブ（讖菴）陀羅尼

玄奘訳『地藏十輪經』序品³の中に説かれる陀羅尼である。経典には「此陀羅尼能令一切智慧猛利破煩惱賊。」とあり、この陀羅尼により煩惱を破ることが説かれる。陀羅尼は「讖菴、讖菴、讖讖菴、阿迦舍讖菴」から始まり、漢字の数は137文字と多くない。日本ではあまり聞かない陀羅尼だが、中国では「具足水火吉祥光明大記明咒」として唱えられている。

次の事例は51歳の女性が光明寺でチュンブ陀羅尼の修行を行ったものである。

【事例4】 年齢：51歳、性別：女性、場所：光明寺

- ・ がんの手術後、光明寺の仏教大学に通い、和尚からチュンブ陀羅尼を勧められる。
- ・ 6か月間、チュンブ陀羅尼300読を毎日行った。
- ・ 光明寺で行われる在家安居修行プログラムに参加するために、毎日チュンブ陀羅尼108読とチュンブ陀羅尼の写経を開始した。
- ・ 夢に幽霊が現れても怖がらず、自分が地藏菩薩を唱えていた。
- ・ 毎日が感謝の気持ちで生きられるようになった。

この51歳女性はがん手術の後に仏教に触れるようになった。釜山で有名な光明寺が運営する仏教大学に通い、そこで和尚から勧められたのがチュンブ陀羅尼との出会いである。これも前に見た陀羅尼と同様、毎日300読という大量の読誦が求められる。そしてそれを6か月間行うとともに毎日の108読と写経も行なった。その功德として夢の中で幽霊

3 大正蔵 13 卷 726 c

にたじろがなかったことや毎日が感謝の気持ちで生きられるようになった。このように本人の心の改善が得られたことがわかる。

④アビラ祈禱

アビラ祈禱とは、毘盧遮那仏の法身真言である「オン アビラ フン カム スヴァハ」を繰り返し唱えるものである。これを有名にしたのは(1) チョル修行にも出た現代韓国の僧侶、ソンチョル和尚であり、現在アビラ祈禱が行われているのはソンチョル和尚と関連があった海印寺の白蓮庵である。そこでは3000拝に次いで行われる。ソンチョル和尚は「一回のアビラ祈禱は百万回、観世音菩薩を唱えるのと同じ。」と述べたという。アビラ祈禱の方法は、ひざまずいた姿勢で背筋を伸ばし、合掌しながら「オン アビラ フン カム スヴァハ」を繰り返し唱える。

次の事例は、51歳の女性が心身の不調を改善するために海印寺白蓮庵で修行したものである。

【事例5】年齢：51歳、性別：女性、場所：海印寺白蓮庵

- ・エステショップを経営していたが、アトピーやうつ病に悩まされた。
- ・姉の勧めで海印寺白蓮庵での3000拝修行を決意。夕方7時に始まったチョルは明け方3時30分に終わった。心に光明が訪れた気がした。
- ・現在は家で1日300拝を行い、白蓮庵で月1回の3000拝と1年に4度、アビラ祈禱を行っている。
- ・アトピーもうつ病も、きれいに治った。さらに修行を通じて、「開かれた耳」を持つようになった。苦痛を苦しみ、訴える人から他人の話を聞いてくれる人へ変わった。

この51歳女性は事業をやっていたが体の不調に悩まされ、それをきっかけとして姉の勧めにより3000拝修行を行うようになった。これは夕方7時から夜中の3時まで行うものである。これにより心に光明が訪れたという。その後、家でも1日300拝行うとともに、白蓮庵での月1回の3000拝と年4回のアビラ祈禱を行っている。修行の効果としては、アトピーやうつ病という体調面での改善とともに「開かれた耳」を持つという精神面での改善も見られるようになった。

(3) 経典読誦

経典の読誦に力があることは経典自身が記している。韓国では、『金剛般若経』、『法華経』がよく読誦される。今回調査した中では『金剛経』が最も多かった。読誦の仕方は、5000読、1万読など、大量に読誦するのが特徴である。

【事例6】 年齢：37歳、性別：女性、場所：主に自宅

- ・ 家族関係など、人間関係に悩む
- ・ 寺に行き『金剛経』を一万読することを勧められる。
- ・ 半分ほど消化したころ、次のような体調の変化が起こった。「浣腸をしたかのように、すべてが体内から出た。(中略) アトピーのように腕と足に赤く皮膚が起きて消えたりもした。脚からは白い膿が出たこともある。特に頭痛と耳鳴り、声が出ないことのため、長い間苦勞した。人の多い所に行くとも頭痛がしたり、スポンジから水がしたたるように体が重く、寝ぼけて過ごしたこともあった。」
- ・ 一万読を終えた後、体が軽くなり、精神的には過去に縛られていた生活から、少しずつ安心し、家族とも安らぐようになった。むしろありがたい気持ちがたくさん起こった。

この37歳女性は人間関係の問題を克服するため、寺院で『金剛経』一万読を勧められた。半分の5000読から、浣腸をしたように体から多くのものが出るようになったというのは、今はやりの言葉でいえばデトックスであろうか。しかし同時に頭痛や耳鳴りなどの苦痛も出てきた。しかし一万読を達成すると精神面の改善を得、それにより家族との関係もよくなり、感謝の心も起こるようになったという。これも大量の読誦という苦行を通した身体の変化が精神の変化につながったものといえるであろう。

(4) 参禅

韓国の禅宗のやり方である看話禅の方法で行う。これは日本の臨済宗と同様、座禅をしながら話頭（公案）を参究する。この中では「これ何ぞ」という話頭が韓国では一般的である。

【事例7】 年齢：57歳、性別：男性、場所：曹溪寺

- ・ 退職後の人生に悩む。
- ・ 曹溪寺で仏教を学び、修行も必要であると思う。
- ・ 参禅を始める。
- ・ 「これ何ぞ」の話頭（公案）を授かり参究する。
- ・ 1日に5-10分の座禅で体と心がよくなった。
- ・ 話頭にとりくんでいるうち、30年以上吸ってきたタバコもやめることができた。
- ・ 座禅で良い習慣を増やして、自分の人格を良い方向に改善し、究極的には完全な人格体を備えるのが夢だ。

この57歳男性は退職後の人生に悩んで仏教に接し修行を始めた。この方が通った曹溪寺は韓国仏教を代表する宗派・曹溪宗の中心寺院である。そこで参禅をはじめ、「これ何ぞ」の公案を受け、1日に5-10分の座禅を行った。また修行により禁煙ができたなど、生活習慣の改善につながっている。そして将来的に「完全な人格体」を備えることが目標という。

この参禅修行はこれまで見てきた苦行型の修行とは違う、ゆとりのようなものを感じら

れる。そして禁煙に成功したりするなど何かを達成するための修行というよりは、人生を修行とともに歩むように見える。

(5) 写経

写経に功德の力があることは経典自身が記している。韓国で一般的に写経されている経典は、『法華経』、『千手経』、『般若心経』、『観音経』などである。

次の事例は、73歳女性の写経修行である。

【事例8】年齢：73歳、性別：女性、場所：文殊禅院

- ・夫の酒癖の悪さに悩んできた。
- ・釜山の文殊禅院、ムビ和尚の指導を受ける。
- ・参禅やチョルは自分に合わなかった。和尚が「心一つに集中させるには写経が効果的」と写経を勧めてくれた。
- ・実践してみると心の安らぎを得た。
- ・家庭でも夫への感謝をしながら写経をしていると、夫が変化した。仏教に理解を示し、よい関係になった。
- ・しかし夫が脳梗塞で急死。ムビ和尚は因縁を受け入れることを指導。現在は夫の極楽往生のために写経を続ける。

この73歳の女性は夫の酒癖の悪さという家庭内の問題をきっかけとして仏教に入り、釜山の文殊禅院に通うようになった。そこでムビ和尚の指導を受けた。そして、いろいろな修行を試したがうまくいかず、和尚から写経を勧められた。写経は心の安らぎをもたらした。そして夫に感謝しながら写経をしているとそれが夫自身を変化させた。そして夫婦関係が改善したが、夫の急死に遭い、現在は夫の極楽往生のために写経を続けているという。

この例から、僧侶が人に合った修行方法を紹介していることを知ることができる。逆に言えば、この寺院ではそれだけ多くの修行ができるようになっていくことがわかり、人の性格に合った修行法を提示できるようになっているところが興味深い。

(6) 念仏

念仏は仏の名号を唱えて極楽往生を祈る行法で、韓国では新羅時代から行われてきた伝統の行法である。次の事例は55歳女性の念仏修行の模様である。

【事例9】 年齢：55歳、性別：女性、場所：聞思修法会

- ・ 学生時代はキリスト教徒。仏教信者の夫と出会い仏教に触れる。
- ・ 聞思修法会に所属する友人から仏教について体系的に学ぶ。
- ・ 社会の様々な問題を「因果」として受け入れられるようになった。
- ・ 念仏を常に唱えることで自分が変わった。感謝の心を持って生きることが出来る。
- ・ 周囲から寛大になったと言われる。修行を始め、仏教を実践しながら、私の問題が一度に解決されていると見るようになった。

この55歳の女性は本来キリスト教徒であったが夫が仏教であったため仏教を学ぶようになった。そして聞思修法会に所属する友人から仏教を学ぶ。聞思修法会とは1988年に有志による大乘経典の勉強会から出発し、1993年に大衆法会を開始した在家信行団体である。本部は京畿道高陽市にあり、全国に支部がある。この人は、とくに因果の教えに衝撃を受け、次いで念仏を行うようになる。それにより自分が変わり、それを周囲からも言われるようになった。このようにこの方は念仏修行による精神面での改善が果たされた。

(7) 慈悲道場懺法

『慈悲道場懺法』10巻を読誦することにより、自分と他人の業障を消滅させるはたらきがあるといわれるもの。『慈悲道場懺法』は大正蔵経45巻に収録されている。梁の武帝が編纂したものである。

【事例10】 年齢：59歳、性別：女性、場所：大光明寺

- ・ 病院で看病人の仕事に従事。
- ・ 大光明寺に通っており、他人のための祈禱をしたいと思っていたところ慈悲道場懺法を実施すると聞いた。
- ・ ガン治療中の義姉のこともあり応募。
- ・ 毎週1回ずつ5回連続で参加して1回の祈禱が終わる。
- ・ 周囲から「顔色がいい」などの反応があったほか心身の調子がいい。息子や娘にもいいことがあった。慈悲道場懺法を行い、病気の人のための祈禱をするという自信がつき、そうしようと誓っている。

この59歳の女性は医療従事者であり患者さんのために祈禱を行うことを考えた。もともと大光明寺に通っており、そこで慈悲道場懺法を行うことを聞いて応募した。ちょうど親族にガン治療中の人もいたことから参加を決意した。内容は、毎週1回ずつ5回連続で行うことから、懺法が全部で10巻あるので1回につき2巻ずつ読誦するものと考えられる。結果としては、女性自身の心身の調子がよくなったほか、家族にも良いことがあった。他人のために始めた祈禱が自分と周囲の人のための効果をもたらした。

(8) ヴィパッサナー

これは南方上座部の修行法で、自分の心の動きを観察する瞑想法である。韓国には1980年代から流行し始め、現在では定着している。次の事例は、自分の精神的な問題を抱えた59歳、女性の例である。

【事例11】年齢：59歳、性別：女性、場所：韓国瞑想院

- ・自分の外面の高い評価とは異なり内面では煩惱が渦巻き常に不安と緊張状態にあった。
- ・10年前、ヴィパッサナーという本を読み、それまでの仏教との違いに驚いた。ある場所でヴィパッサナー修行を試みるが効果はなかった。
- ・インターネットで韓国瞑想院を探し、指導を受けると効果があった。
- ・要点は、ありのままに起きる私の妄想と考えを見守り、気づくことだけだ。
- ・不安や緊張がなくなり幸福感を感じられるようになった。

女性が修行に入るきっかけは、自分の中にある不安と緊張状態の解消である。ヴィパッサナーには10年前に本を通して触れて修行をしたが効果は感じられなかった。その後、インターネットで韓国瞑想院を探し、そこで指導を受けると効果があった。そして現在では不安や緊張がなくなり幸福感を感じられるようになったという。

以上これまで見てきた修行法をまとめると<表2>のようになる。

<表2>

	修行名	性格	韓国仏教の 伝統との関り	備考
1	チョル	身行	伝統改良	大量反復
2	陀羅尼読誦	口行	伝統(禪宗)	大量読誦
3	經典読誦	口行	伝統(禪宗)	大量読誦
4	參禪	身心集中	伝統(禪宗)	
5	写經	精神集中	伝統	
6	念仏	口行	伝統	
7	慈悲道場懺法	口行	伝統	
8	ヴィパッサナー	瞑想	非伝統	

以上の8つの祈祷・修行のうち、性格で分類すると、身体的な行はチョルである。続いて口の行が、陀羅尼読誦、經典読誦、念仏、慈悲道場懺法であり、一番多い。參禪は身心を集中するもの、写經は精神を集中するもの、そしてヴィパッサナーは瞑想である。

韓国仏教の伝統との関わりから見ると、チョルは儀礼を修行にしたということから伝統改良形といえる。陀羅尼読誦、經典読誦、參禪は、韓国仏教の伝統的宗派である曹溪宗の伝統が反映している。とくに曹溪宗は臨濟宗の流れを汲んでおり、陀羅尼でいえば大悲呪、楞嚴呪などは日本の禪宗でも読誦する。また經典で『金剛經』が中心なのも曹溪宗の伝統が反映している。さらに念仏に着目すると、朝鮮時代の仏教は諸宗が王権により強制

的に統合させられたため、多くの仏教宗派が融合したのが曹溪宗であるから、その中に念仏も入っている。またヴィパッサナーは韓国仏教の中では非伝統の修行法である。

最後に、今回紹介しなかった修行としては慈愛瞑想、慈悲禅修行、慈愛瞑想がある。

4 仏教信者の祈祷・修行の契機と効果

続いて韓国の仏教信者は、どのようなきっかけで祈祷や修行に入るのか。またその結果、どのような効果を得ているのかをまとめてみる。

(1) 契機

第一に、祈祷・修行に入るきっかけを見てみる。体験談の中、動機が明確に書いてあるものをまとめると次のようになった。

第一が病気で36名。これには本人の病気のほか家族の病気もある。第二が経済問題で12名。夫の事業がうまくいかないことや友人に騙され財産失った例などがある。第三が家族の問題で11名。夫の酒乱や暴力、夫との不仲、息子の問題、継母への恨みなどがある。第四には家族の感化で10名。母親が熱心な仏教信者だったなど、家族の感化により祈祷修行に入るきっかけになったというものである。第五には仏教への関心で9名。本来仏教に興味があった、出家もしたいという例があった。第六には人生の悩みで7名。これには、生きることの意味を求めたり、繰り返しの日常への懐疑などがあった。第七には友人・知人の勧誘で6名。第八には自己改善で5名。これには自分自身への不満だったり、単純に新しいことを始めたかった、などがある。第九には試験で3名。息子の大学受験、本人が受験する司法試験の合格を祈願するものなどがあった。第十には家族との死別で2名である。

以上、祈祷・修行の契機は病気、経済、人間関係が多いことがわかった。

(2) 効果

続いて修行の結果として得たものをまとめてみる。これは記事に明確に効果が記してあるものを数えたものであり、全員分ではない。

第一には精神、性格の改善で45名。例として、「自分のせっかちな性格が改まり、他人にもっと親切になった。」、「怒りがおさまり、心が平安になり始めた。」、「自分中心の考え方が改まった。」、「感謝の心がわくようになった。」などがある。第二には、人間関係の改善が6名。「職場はもちろん家庭生活が円満になった。」、「夫や子供との仲がよくなった」などがある。第三には病気回復で20名。「アトピーやうつ病が治った」、「原因不明の病に悩む妻が回復した」などがある。第四には家族の利益で6名。これには「子供の勉強がうまくいくようになった」、「子供の就職がうまくいった」などがある。第五には経済利益で

6名。これには「仕事が増えた」、「お金が入って来るようになった」などがある。

以上、効果の基本は身心の改善である。内容を見ると身体よりも精神、性格の改善が多くみられるのが特徴である。

5 代表的寺院

これまで様々な修行法とそれを行った信者について見てきた。続いて信者が通う寺院について見ていきたい。今回調査した165人の体験談の中、信者が通った寺院をまとめると次のようになる。

最も多い26名が通ったのが大光明寺。15名が弘法寺、徳陽禅院。11名が法王精舎。8名が白蓮庵。4名が如来寺仏教大学、微笑院。3名が釜山仏教教育院、海南寺。2名が韓国仏教大学大観音寺、共生禅院、玉泉寺、曹溪寺。1名が弥陀寺、正法研究院、韓国瞑想院、仏力会、東国大学生涯教育院、宝林禅院、歓喜禅院、ダムマヤナ禅院、救仁寺、ハッピー法堂、牛谷禅院、聖輪寺。その他、寺院の名前が出ないものもあった。

続いて、いま挙げた寺院の中、登場回数の多い寺院を4か寺、大光明寺、弘法寺、徳陽禅院、法王精舎の順で紹介する。これらは現代韓国仏教の祈祷・修行の最先端といえるものである。

(1) 大光明寺

大光明寺はプサンにある、モクチョン和尚（曹溪宗）が住職を務める寺院である⁴。モクチョン和尚は、梵魚寺で出家し修行した後、2006年から梵魚寺布教堂で大衆を指導した。そして2009年4月に大光明寺を設立し、1年で登録信徒数が2500名を超えるほどの大きな寺院に成長させた。

大光明寺のスローガンは「すべての生命体のために、正しく学び正しく実践せよ」である。信徒会には、昼間同門会、夜間同門会、四無量、大願念仏供養会、三生会、声莊巖合唱団、法友山友会などがある。今回調査した新聞連載の中では26例があり、その中の修行には、チョル修行、呪力修行、写経修行、参禅修行、感謝修行などがあつた。

モクチョン和尚は自分の仏教観を次のように説いている⁵。和尚は仏教で一番大切なものを「幸福」であるという。この幸福を得る方法を釈尊が提示したのに、我々がそれに従っていないのが不幸の原因であるという。幸福になるための方法は「捨てる」ことである。釈尊は捨てることで満足を得た。捨てることとは、見方を変えることである。すなわち布施をするのは相手が喜ぶためではなく、自分の欲望を減らすためであるからだ。このことがわかったからといってすぐに体得できるのではない。くりかえし実践しなければな

4 大光明寺ホームページ：<http://daekwangmung.com/board/main>（2020年10月1日閲覧）

5 「釜山大光明寺モクチョンスニム」『仏教新聞』（2010年2月27日付）

らない。座禅や他人への奉仕が必要である。座禅を通じて自分を省察する。自分という自分の対象を正しく見る必要がある。ただ、これにとどまってはならない。大切なのは実践だ。大光明寺の信徒たちは1か月に10時間以上ボランティア活動をする。一人暮らしの高齢者や恵まれない高齢者を訪れ無料給食の配布を行ったり洗濯や掃除をしている。

(2) 弘法寺

弘法寺はプサンにある、シムサン和尚（曹溪宗）が主宰する寺院である⁶。

シムサン和尚は、曹溪宗の宗立大学である東国大学卒業後、慶尚南道にある名利・通度寺の講院を終了した。のち釜山布教院住職などを歴任。弘法寺は2003年に釜山に開院し、2010年に高さ21mの阿弥陀大仏を造営している。

弘法寺では定期法会のほか、仏教大学を運営し、その他、子供法会、東林青年部、大学法会、人材開発奨学会、童子僧短期出家、乳幼児授記法会、有髪上座（出家せずに僧侶を師匠として真の仏教者として生きる制度）、浄土体験、英語テンプルステイ、108山寺巡礼などを行っている。

新聞の連載中、弘法寺に通った例は15例あった。通うきっかけは、家族や知人の紹介が多い。その中には、チョル修行、参禅修行、呪力修行、写経修行、慈悲道場懺法など、様々な修行法が行われている。

(3) 徳陽禪院

徳陽禪院はポプサン和尚（太古宗）が主宰する大悲呪専門の修行道場である⁷。

和尚は、1994年に大悲呪108読100日祈祷中に仏の加被を体験した。のち京畿道の一山に徳陽禪院を開院し、現在でも毎週金曜日の夕方、大悲呪修行と定期法会の時も大悲呪修行の精進を続けている。著書に、『千手経と大悲呪』（2009年）、『私の生に一度だけの今日：一山法相和尚の大宇宙修行例話編』（2013年）、『大悲呪修行の力：絶対肯定の妙薬 神妙章句大陀羅尼求道記』（2014年）、『大悲呪修行法要集』（2014年）など著書に、『千手経と大悲呪』（2009年）、『私の生に一度だけの今日：一山法相和尚の大宇宙修行例話編』（2013年）、『大悲呪修行の力：絶対肯定の妙薬 神妙章句大陀羅尼求道記』（2014年）、『大悲呪修行法要集』（2014年）などがある。このほか仏教放送など、メディアにもたくさん登場している。このように大悲呪専門の道場として活発に活動を行っているところに人気を集める要因があると考えられる。

今回の調査では、徳陽禪院に通った例は15例あった。通うきっかけとしては、知人の紹介、テレビ・インターネットなどがあつた。いわば口コミとメディアである。

6 弘法寺ホームページ：<http://www.busanbuddhism.net/>（2020年10月1日閲覧）

7 徳陽禪院ホームページ：<http://www.daebiju.com/>（2020年10月1日閲覧）

(4) 法王精舎

法王精舎⁸はチョンギョン和尚（曹溪宗）が主宰するチョル専門道場である。チョンギョン和尚は1997年に最初に道場を開き、以後、ソウル、釜山、大邱にも開院した。和尚はチョル修行者として韓国内で有名である。3000拜の勇猛精進を250回行うなど、今まで1000万拜のチョルをしたほか、テレビなど、様々なメディアに出演して108拜ブームを巻き起こした。著書に『悟ったチョル修行とは?』（2016年）などがある。このようにチョンギョン和尚の理論と実践に加え、メディアを通じた宣伝が法王精舎に人が集まる要因になっていると考えられる。

今回の調査では、法王精舎に通った例は11例あった。通うようになったきっかけとしては、チョル修行が良いという噂を聞いた、あるいはチョンギョン和尚の書物を読んだことなどが挙げられている。

以上紹介した4つの寺院の特徴を次のように指摘できる。第一に、これらはみな、過去30年から20年以内に建立された新しい寺院である。第二に、これらは新設寺院であるが、新宗教の寺院ではなく伝統宗派の寺院である。第三に、寺院運営に成功した理由としては、住職の個人的なカリスマ、あるいは組織づくりの巧さによると考えられる。第四に、これら寺院は修行の形態から、総合型と専修型の二つに分かれること。総合型とは①大光明寺と②弘法寺で、寺院の中に様々な修行ツールを準備し、人の性格、能力を住職が見極めて信者に修行を与えるようになっている。これに対して専修型とは、③徳陽禪院、④法王精舎が該当し、文字通り大悲呪修行、チョル修行というようにある修行に特化している寺院である。

その他、現代の仏教のあり方として注目すべきがインターネットサイトやSNSといったメディアの活用である。悩みを抱えた人が、インターネットで寺院や僧侶を検索したり、信者のコミュニティサイトに加入し、そこで法話を聞いたり修行に関する情報を得たり、自分の修行の進展を書き込んで他人から批評を受けたりなどしている。新聞の連載に出た代表的なものとしては、『金剛経』に関するサイト「心に太陽が昇る頃⁹」、インターネットの修行カフェ「金剛 - 仏教入門から成仏まで」¹⁰、アピラ祈祷に関連する「アピラカフェ」¹¹などがある。つまり寺院に代わるものとしてメディアを通して僧侶の指導や信者同士の交流を行う例があるということである。

8 法王精舎ホームページ：<http://www.xn--yk3bw8eg3fh1b.net/>（2020年10月1日閲覧）

9 https://m.cafe.daum.net/mindprajna/_rec

10 http://cafe346.daum.net/_c21_/home?gpid=JD02

11 http://cafe186.daum.net/_c21_/home?gpid=tTom

6 まとめ

以上、現代韓国の仏教信者の主要な祈祷・修行法、およびそれらが行われる主要な寺院を紹介した。簡単に整理すると次のようになるであろう。韓国の場合、人生あるいは仕事の悩みを抱えた仏教信者は、寺院に行き祈祷や修行による解決を期待する。そこで行われるのがチョル、陀羅尼読誦、經典読誦、参禅、写経、念仏、慈悲道場懺法、ヴィパッサナーなどの修行である。この中ではチョル、陀羅尼読誦、經典読誦が多く行われる。これらは大量の動作の反復や読誦を特徴とし、その苦行の末に体調や精神の改善、そして仏の加被と表現される良いことが現れる。これらは韓国内の多くの寺院で行われているものであるが、中でもチョル修行の法王精舎、大悲呪の徳陽禪院、そして釜山の弘法寺と大光明寺が現代韓国で人気を集める寺院であった。

最後に日本との違いについて簡単に考察してみたい。おそらく一般の日本人が伝統寺院に求めるのは葬式と法要である。祈祷も行われるが、韓国のように信者自身が行う祈祷・修行は少ない。もちろん日本にも仏教信者が日常で行う勤行というものはあるが、それは日常的な儀礼の側面が強いと思われる。そして日本の場合、韓国仏教信者のような人生や仕事の悩みを抱えた人は新宗教に行くのではないか。

このように見てくると、両国にはともに伝統文化としての仏教は存在するが、宗教的役割が違うとみられる。今後もこの点を調査し、両国の仏教のあり方を明らかにしていきたい。

<参考文献>

1. 一次文献

法宝新聞社『法宝新聞』

2. 二次文献

佐藤厚『初めての韓国仏教－歴史と現在』（佼成出版社、2019年）

<キーワード>

祈祷、チョル、大悲呪、楞嚴神呪、アビラ祈祷、金剛経、写経